

る、田柄、富士見台駅南側、下石神井の3地区では、都条例に基づく新たな防火規制区域を指定し、建物の不燃化を促進します。

●都市インフラ整備とまちづくり

鉄道や都市計画道路など遅れている交通インフラの整備を着実に進め、これに合わせた周辺のまちづくりに取り組むことで、快適で暮らしやすいまちの実現を目指します。

東京都交通局の4年度予算案において、「地下鉄12号線の延伸に関する調査」と明示した経費が、初めて計上されました。事業者としての大江戸線延伸具体化への意向が明確に示されたと考えています。都と連携して、区も調査・検討を行い、早期事業化を目指し協議を進めていきます。(仮称)大泉学園町駅予定地周辺では、大泉学園通りの拡幅事業に取り組み、桜並木再整備や無電柱化などを進めるとともに、駅前広場の整備や商業施設等の立地誘導など新たな拠点づくりを検討していきます。沿線で先行して進めてきた土支田中央土地区画整理事業は、今年度に全て終了します。

西武新宿線の連続立体交差化計画は、昨年11月、東京都が都市計画決定し、関連する道路計画を区が決定したことにより、大きく前進しました。引き続き、都や西武鉄道、沿線区市と連携し、4年度から5年度の事業認可を目指し、用地測量等を実施します。

上石神井駅周辺では、来年度の地区計画の都市計画決定を目指し、武蔵関駅周辺では、交通広場や補助230号線の事業化に向けて、用地測量や設計を実施します。

石神井公園駅南口西地区市街地再開発事業については、組合設立に向けた事業計画の作成や、権利変換計画の検討を支援し、事業を促進します。併せて、都市計画道路補助232号線の事業認可に取り組みます。

光が丘駅周辺で更なるバリアフリー化を進めます。駅南側出入口周辺で下りエスカレーター及びスロープの設置工事に着手します。また、練馬光が丘病院の移転に合わせ、駅と病院を結ぶ経路に、視覚障害者誘導用ブロックや案内板を整備します。



大江戸線延伸の早期事業化を目指し、都との協議を加速します(写真提供:東京都交通局)

●練馬のみどりを未来へつなぐ

練馬のみどりを守るため、引き続き特色ある公園の整備などにより、みどりのネットワークの形成を進めるとともに、みどりを育むムーブメントの輪を広げていきます。

長期プロジェクトである稲荷山公園の整備に向けた取組みを進めます。今年度の基本計画策定に続き、来年度は、詳細なゾーニングや着手する事業区域などを検討し、実施計画を策定します。

練馬区みどりを育む基金は、複数の事業から応援したいメニューを選択出来るようリニューアルした結果、寄付件数が大幅に増加しました。来年度は、牧野富太郎博士の書斎再現プロジェクト、「(仮称)農の風景公園」で使用するトラクター調達プロジェクトに、基金を活用します。

●脱炭素社会の実現に向けた総合的な環境施策の展開

国は、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする脱炭素社会の実現を目指しています。

住宅都市練馬区では、二酸化炭素の5割以上が家庭から排出されており、区民一人ひとりの行動が大きな意味を持ちます。地域住民、学校、事業者、民間団体等、様々な主体と協働し、「エネルギー」「清掃・リサイクル」「みどり」「地域環境」の4分野を柱に、一步一步、脱炭素を推進し

ています。区内最大の事業者である区自身も、庁舎等の省エネルギー化、電気自動車等の導入推進、プラスチックを含むごみ排出量の抑制などの取組みを続けています。こうした取組みの充実による、2050年の二酸化炭素実質排出ゼロに向けて、来年度中に、脱炭素社会の実現に向けた計画を策定します。

計画の策定に先立ち、4月から不燃ごみ資源化事業を開始します。1年間で、約1,500トンの金属類等を資源として有効活用出来るようになります。

経済、都市農業、文化施策

●産業振興、商店街振興

コロナ禍により、事業環境が大きく変化し、事業活動におけるデジタル化の必要性が高まっています。

4月から、練馬ビジネスサポートセンターで、中小企業診断士によるデジタル化専門相談を開始するとともに、デジタル化・イノベーション等支援特別貸付を実施します。事業者の販路拡大を支援するため、商談交流会の実施回数を増やし、オンライン開催を進めます。

「スマート商店街プロジェクト」を開始し、デジタルを活用した魅力発信やキャッシュレス化などの取組みを促進します。引き続き、練馬区商店街連合会が実施する30%のプレミアム付商品券事業を支援します。

●都市農業施策

区内には、豊かな畑地や屋敷林、それを取り囲む並木など、練馬の原風景が残されています。この素晴らしい光景を将来の世代へ引き継がなければなりません。

都市農業に先進的に取り組む国内都市から、農業者や行政関係者を招聘し、「(仮称)全国都市農業フェスティバル」を開催します。5年11月の開催に向けて準備を進めます。

「(仮称)農の風景公園」は、管理棟などの建設工事に着手し、来年3月に開設します。特定生産緑地については、対象の約9割を超える農地を指定しています。引き続き、東京あおば農業協同組合と連携し、指定助奨に取り組んでいきます。全区立小学校における農業者と連携した体験学習や、農福連携の更なる推進などにより、都市農業の振興に取り組めます。

●文化施策

みどりの中で優れた文化芸術を楽しめるまちを実現します。

美術館再整備基本構想(素案)で掲げた、「まちと一体となった美術館」「本物のアートに出会える美術館」「併設の図書館と融合する美術館」の3つのコンセプトを実現し、練馬独自の新しい美術館を創造するため、敷地を拡張し、全面改築します。来年度は、基本設計に着手します。また、地元の町会・商店会と連携して、中村橋駅周辺のまちづくりを進めます。

区立図書館は、社会状況の変化や多様化する区民ニーズに対応するため、「(仮称)これからの図書館構想」の策定に向けて検討を進めています。検討委員会からの報告を踏まえ、6月に素案を公表し、区議会並びに区民の皆様のご意見を頂いたうえで、11月に成案とする予定です。

「映像∞文化のまち構想」に基づき、映画・アニメ・漫画など、区の映像文化資源を活かし、ソフト・ハードが一体となった夢のあるまちづくりを進めます。練馬区ゆかりの俳優等による対談動画「ねりま映画サロン」の配信、小中学生の映像文化体験、名画上映会の開催などを通して、幅広く映像文化に触れる機会を創出していきます。

ハリポッター・スタジオツアー施設が、来年春オープンします。ワーナーブラザーズと連携し、作品の上映イベントを開催するほか、周辺商店会や町会などと連携して練馬の新しい魅力を発信します。

区民協働・区政改革

●区民協働の推進

区政最大のパートナーである町会・自治会は、コロナ禍により活動が大きく制約されており、加入案内や広報活動等にSNS等を活用出来るよう支援していきます。

先進的な取組みをまとめた実践事例集の作成、講習会の実施、アドバイザーの派遣に加えて、通信回線使用料補助を開始します。また、町会・自治会の加入を促進するため、近く作成する集合住宅向けのハンドブックを活用します。

地域で活動する団体同士の交流を進めるため、「練馬つながるフェスタ」を6地域に拡大します。「つながるカレッジねりま」のみどり分野に新たなコースを開講し、憩いの森の区民管理の拡充を進めます。

●窓口から区役所を変える

区はこれまで、「またない」「まごつかない」「何度も書かない」窓口の実現に向け、窓口情報提供システムや申請書一括作成システムを順次導入し、目に見える形で窓口改革を進めてきました。

来年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止と区民の更なる利便性向上のため、キャッシュレス決済を拡大します。区民事務所など11カ所の窓口で、住民票や印鑑証明書など各種証明書の手数料の支払いに、クレジットカードや電子マネー等を使えるようにします。また、国民健康保険料に加え、住民税、保育料、介護保険料などの口座振替手続きをスマートフォンやパソコンで出来るようにします。

お悔やみに関する専用の窓口を設置し、多岐にわたる手続きの申請書などを一括してお渡しするとともに、関係機関をご案内します。

おわりに

「改革ねりま」の実現を目指し、無我夢中で仕事をしているうちに、あっという間に8年が過ぎようとしています。この間、政策と行政運営の両面にわたり、様々な「練馬区モデル」を構築し、練馬区の発展に力を尽くしてきました。みどりの風吹くまちビジョンをはじめ、区政改革計画、グランドデザイン構想、第2次ビジョン、公共施設等総合管理計画などを策定しました。

私は若い時から、広い意味での福祉の増進こそが、自分のライフワークだと思い定めて、行政に取り組んできました。区長となってからも、こども、高齢者、障害者やひとり親家庭など、支援が必要な方々への施策や、病床の確保をはじめ医療の充実などに重点的に取り組んできました。併せて、区民の生活に必要な、道路・公園、みどり、産業、農業、文化など、ソフト・ハードのまちづくりも着実に進めることが出来たものと考えています。

特にこの2年間は、新型コロナウイルス感染症から区民の命と健康を守り、生活を支えるために、他の自治体に先駆けて様々な施策を実行してきました。なかでも、国と綿密に協議して構築したワクチン接種体制「練馬区モデル」は、今では全国自治体の標準モデルとなっています。

私の目指す改革とは、区民の生活や街の姿を、区民の皆様とともに、目に見える形で良くする事、そのために区の行政を変える事であり、「区民の実感に届く行政」を基本としてきました。

もとより、それは行政の力だけで出来るものではありません。常に、区民との協働により実現しようと努めてきました。それこそが、住民に最も身近な基礎的自治体である区の役割であり、住民自治を体現することであると考えています。

些かなりとも区の将来を拓くことが出来たかと、手応えを感じていますが、「改革ねりま」は道半ばです。今ここで投げ出すわけにはいきません。区民の皆様と手を携えて、この難局を乗り越え、更に練馬区モデルを進化させ、積み重ねていきたい。区民の皆様の声を糧に、「ここに練馬区あり」と胸を張れる自治体を目指し、この道をまっすぐ歩んでいきたい。そう考えています。

区民の皆様にご信任を頂けたならば、来期も区長として練馬区の発展に全力を尽くす決意です。